



2020年2月19日

中東経済シリーズ ～中東北アフリカ諸国の金保有～

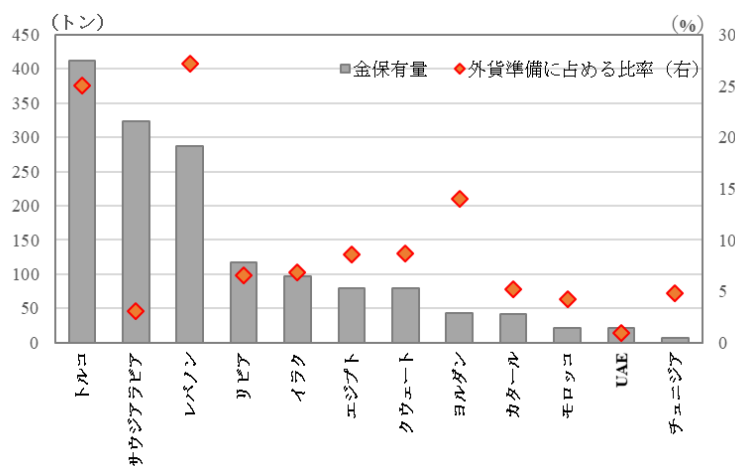
公益財団法人 国際通貨研究所
開発経済調査部 主任研究員 九門康之

世界経済の不透明性が高まる中、各国中央銀行による高水準の金購入が報道されているが、中東北アフリカ諸国（MENA）には以前より戦略的に金保有を実施してきた国がある。MENA で、外貨準備に占める金の比率が最も高い国はレバノンで 27.2%である。トルコが 25.3%、ヨルダン 14.0%と続く。いずれも非産油国である。他方、産油国は、クウェートが 8.7%、サウジアラビア 3.1%、アラブ首長国連邦（UAE） 0.9%と相対的に金保有比率が低い（図表 1）。

トルコには、伝統的に生活防衛の観点から個人・法人問わず、金を保有するという習慣がある。また、2011年に政府は、市中銀行のトルコ中央銀行へのトルコ・リラ準備金の10%を金で代替することを認めた。これにより中央銀行に金が集中した。また、トルコ・リラの信用力を補完するため金保有に力を入れた。結果、2011年以降トルコの金保有比率が上昇した（図表 2）。

レバノンは、国内経済安定の観点から本国通貨のレバノン・ポンドをドルにペッグしている。同国の金保有は、本国通貨の信用の裏付けとすることが目的である。

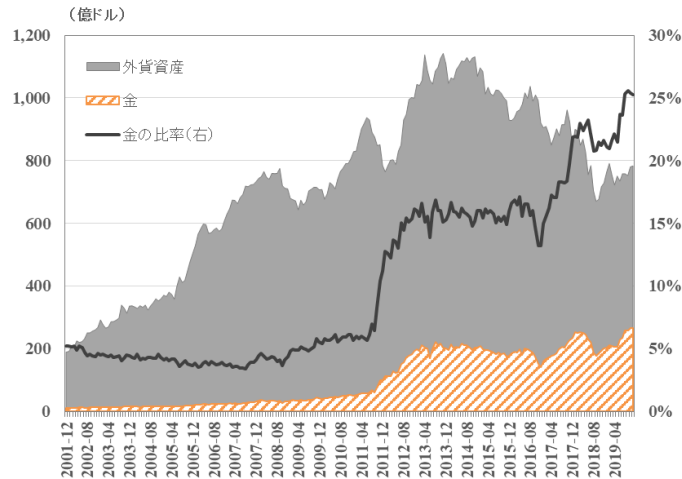
図表 1：中東北アフリカ諸国の金保有量と外貨準備に占める比率¹



(資料) World Gold Council データより作成

¹ 2020年1月現在のデータによる

図表 2：トルコの外貨準備・金残高と金保有比率推移



(資料) トルコ中央銀行データより作成

湾岸産油国は、一般に金保有のイメージが強い。しかし、一定量を保有しているものの、外貨準備にしろる金保有比率は低い。これには、次のような理由が考えられる。

- ◇ 石油の輸出により安定した外貨収入があるため、金による自国経済の信用補完の必要がないこと。
- ◇ 輸出で得た外貨はソブリン・ウェルス・ファンド (SWF) 等を通じ積極的に運用しており、それ自体が収入を生まない金投資への優先順位が低いこと。

但し、湾岸産油国でも国民の間では、個人的蓄財の手段として金の人気が高く、アラブ首長国連邦 (UAE) 等のスーク (市場) には多数の金専門店が営業している。中東が金のイメージで語られる所以である。

以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。